

第24回

新王まつり

時を越え
いま旅立つ

(平成十八年)



新谷 芽衣香
(伊勢市)



小倉 里穂
(明和町)



山田 幸代
(津市)



井出 彩花
(伊勢市)



大山 結
(明和町)

舞人
まいびと



田川 修
(津市)

検非違使
けびいし



井上 崇
(明和町)

近衛使
このえつかい



陳 娟娟
(中国)



相 蒙蒙
(中国)



王 筠
(中国)

舞人
まいびと



野田 保己
(鈴鹿市)



山中 松行
(鈴鹿市)

陪従
べいじゆう



脇田 友夫
(東京都)



奥山 憲生
(伊勢市)



岡森 義貴
(名張市)

検非違使
けびいし



下地 康雄
(尾鷲市)



森 大樹
(伊賀市)

風流傘
ふうりゅうがさ



鈴木 直孝
(四日市市)



中村 篤
(四日市市)



奥田 勲
(四日市市)

隨身
ずいしん



大野 彰久
(埼玉県)



大谷 厳
(津市)



辻 泰
(鈴鹿市)

輿了
よちよう



福戸 亮
(名古屋)



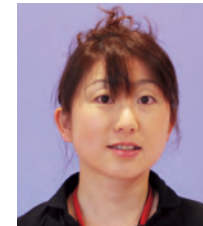
中村 勇夫
(鳥羽市)

輿了
よちよう



小原 毅
(名張市)

輿了
よちよう



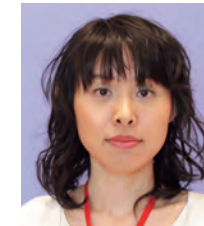
上野 智美
(伊勢市)



古市 裕美
(松阪市)



倉谷 美香
(名古屋)



山出 真由
(鈴鹿市)

内侍
ないし



市野 瑛子
(松阪市)

女別当
によべつどう



藤岡 千紗
(津市)

采女
うねめ



宮木 見梨
(松阪市)



東 希穂
(津市)



岡村 好美
(鳥羽市)

命婦
みょうぶ



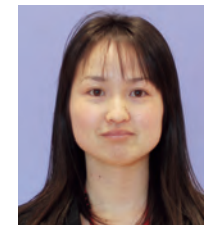
上地 峰子
(明和町)



村田 葵
(伊勢市)



磯部 恵美
(東京都)



米田 陽子
(玉城町)

女孺
にようじゆ



石川 雅子
(埼玉県)

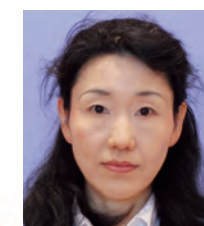


吉原 梨恵
(四日市市)

采女
うねめ



池田 美幸
(大阪府)



上野 衣美
(伊勢市)



米井 真理
(伊賀市)



森 あゆみ
(津市)



服部 友美
(伊勢市)

女孺
にようじゆ



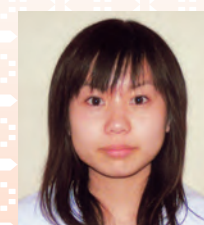
稲田 さかえ
(志摩市)



小倉 志穂
(明和町)



北村 早羅
(伊勢市)



中川 紬子
(桑名市)



奥村 真衣
(明和町)

舞人
まいびと

配役

子供出演者

(順不同)



木本 樹
里中 勇祐
津田 誠弥
森山 貴仁
奥山 泰暉
仲 勇人
渡辺 翔平



岡本里穂奈
岡本 萌那
島田 結衣



奥野 舞美
奥村 一裕
矢賀 優
平川 麻尋
矢賀 愛
山本 茉由
協田 真帆
村田 葉月
藤波架江



川島明日香
中瀬 真歩
三谷 奈央
佐々木美月
西口 玲央
中屋 由衣



下村 祐介
山中 美範
寺家 瑞稀
岡山 真
中瀬 堅也
加藤 敦史
原田 雄太



北出 絵美
浅沼 尚子
鈴木 稚菜
小竹 楓恋
北野 桃子
小竹 彩夏
森下 羅紫



西川 裕菜
松本 侑子
竹本悠季乃
竹本亜結乃
田畑 葵
坂本 知栄

斎王まつりのこと

昭和五十八年（1983年）という二十三年前になる。お伊勢さんに参拝していた女性たちのうちの一人が言った。

「私も、斎王さんのお祀りをせなあかな。」四年前（昭和五十四年 1979年）に斎宮跡は国史跡に指定され、発掘が始まっていた。たちまち「斎王をお祀り」しようということで盛り上がり、行政や商工会に働きかけた。その意思は受け継がれ、六百六十年間の斎王制度に多くの人々が関わったように、斎王まつりの二十三年間はまた、斎王の歴史の中に位置づけられるようになってきた。

斎王の輿が、初夏の古道をたゆたいながら進んでいる。きらびやかな衣裳をつけた女性たちが幻影のように続く。たくさんの人々がいる。そのなかで、ふと、人は気がつくのだ。

私たちも歴史の一ページの中にいる、と。つぶやくように発せられた、一人の女性の何気ない一言から、斎王まつりの風景が生まれた。

6/3(土)

斎王禊の儀

13:00～15:00
大淀兼平公園にて
禊の儀再現（雨天中止）

前夜祭

雨天の場合 明和町総合体育館にて
17:00～21:00
現代版「斎宮うたあわせ」発表
第24回の斎王他 披露等
ゲスト INFIX
(インフィックス)

斎王群行

13:00～15:00（雨天中止）
上園芝生ひろば（斎宮駅北）
から斎宮歴史博物館まで
斎王群行を再現

アトラクション 斎王市

10:00～15:00
斎宮歴史博物館会場
ステージで
各種アトラクション
現代版「斎宮うたあわせ」
フォトコンテスト
募集

もくじ

斎王まつり配役	2・3
斎王まつり子供出演者	4
ゲストプロフィール	4
斎王をひもとく （伝承斎宮語り）（四）	6・7
斎宮跡の発掘調査	8・9
斎宮のいる風景 歴史の声が聞こえる	10～13
図書の紹介/実行委員会組織体制	14
実行委員会活動内容	15
斎王群行	16・17
斎宮アラカルト	18・19
斎王なんでもナンバーワン	20
フォトコンテスト/斎宮うたあわせ	22・23
第23回斎王まつりの思い出	24



特別ゲスト infix

日本テレビ系「西遊記」の主題歌「傷だらけの天使なんてになりたいとは思わない」や、「機動戦士ガンダムVガンダム」のテーマ「Winner's Forever」のヒット曲で知られる。全国FM局のパーソナリティとしても活躍しつつ、長く日本のJ-ROCKシーンを走り続ける。

《プロフィール》

VOCAL：長友仍世
●1965年10月7日生
●血液型 O型
●福岡県大牟田市出身

GUITAR：佐藤 晃
●1965年5月20日生
●血液型 AB型
●宮崎県高千穂町出身

独自の世界観と強烈なロックサウンドで、長い間日本のロックシーンを担う一方、絶妙な九州弁のトークでラジオパーソナリティとしても活躍。93～97年、5年連続「FM STATION」誌上人気DJランキング2位。
infixはもちろん、02年にはソロアルバム「Provision2」をリリース。TMN宇都宮隆氏などへの楽曲提供をはじめ、アーティストからアイドルまで幅広くプロデュース活動にとりくむ。



第146次調査 調査の風景



第146次調査 延びる堀

調査は、多気郡明和町斎宮字西加座に所在する畑地で実施しました。以前から調査の進む方格地割西加座南区画の中央南に位置します。調査は平成十七年九月二十七日から開始し、面積は二三〇㎡ありました。方格地割と古代官道が交差する部分を確認することが目的です。

遺構については、奈良時代以降の土坑や溝があることが判明しました。これらのもの、溝五条については、平行になるものが二組、一組のものとはほぼ直角に交わるものがありました。

平行する一組は、幅〇・五〜〇・六m・深さ〇・一mの溝と幅〇・六〜〇・七m・深さ〇・二mの溝です。これらは東西方向から南へ約一五度振っています。また、これらのうちの一つは第八十三次調査（平成元年）で見つかった溝、もう一つは第八十三次調査で見つかった溝が延びてきたものといえます。これらは、古代官道の道路側溝であることがわかりました。

もう一組の平行する溝は、幅〇・八〜一・〇m・深さ〇・三mのものと幅〇・八〜一・〇m・深さ〇・三mのものです。これらは東西方向から北へ約四度振っています。また、これらのう

第一四八次調査

ち一つは第二五―一三次調査（一九七九年度）や第八十三次調査で見つかった溝、もう一つは第八十三次調査で見つかった溝が延びてきたものと考えられます。これらは、方格地割西加座南区画の南側の道路側溝であることがわかりました。

先ほどの方格地割のものにはほぼ直角に交わる溝もあります。幅〇・五m以上・深さ〇・三m以上の大きさがありませんでした。調査区の制約もあり全体を確認することはできませんでした。南北方向から西へ約四度振っています。第八四次調査（平成元年度）でみつかった溝と同じものと考えられます。これは方格地割西加座南区画の中央につくられた南北道路西側の側溝であることがわかりました。

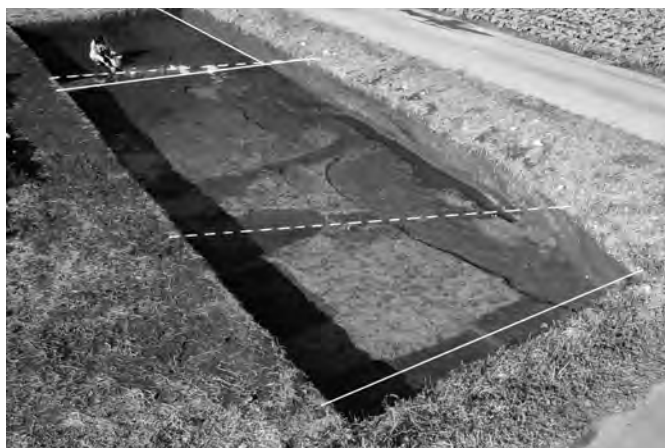
また、調査で出土した遺物は、奈良時代以降の土師器・須恵器、緑釉陶器や土馬などがありました。

調査の結果、古代官道と方格地割が交差する部分を確認することができ、古代の官道がなくなった時期や、方格地割を作り始めた時期を考えるための手がかりをえることができました。

斎宮歴史博物館
小 濱 学



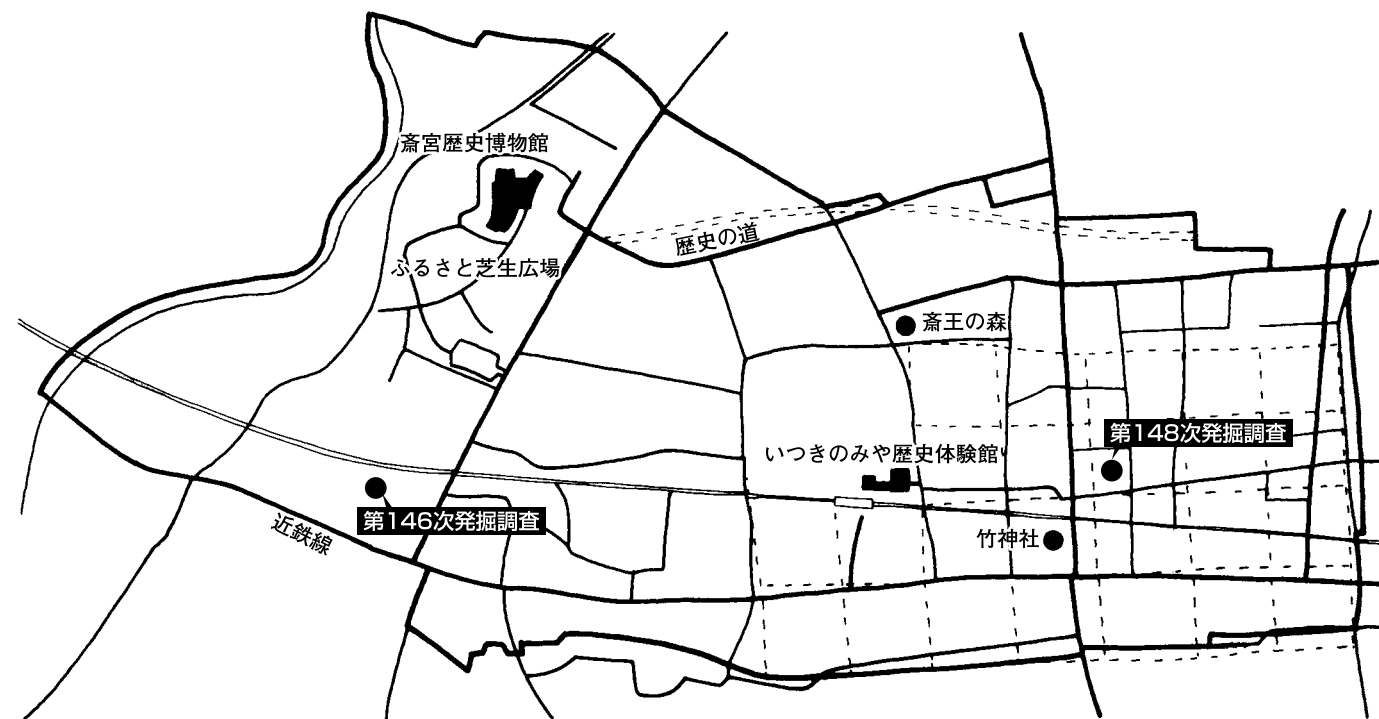
第148次調査 現地説明会の風景



第148次調査 古代の官道と方格地割

平成17年度の

斎宮跡の発掘調査



第一四六次調査

史跡西部では平成十四年度から初期斎宮（飛鳥・奈良時代の斎宮）を確認するための調査を行っています。今年はその四年目にあたり、明和町竹川字中垣内地内の近鉄線南側を調査しました。昨年度の調査では、見つかった柵を北辺とする一辺約一〇七m（三六〇尺）の方形の区画が想定されました。今回の調査区は、この区画の内側になります。付近は台地上で最も高い場所にあたるため、初期斎宮の候補地として有力視されてきた場所です。

今回の調査では、古代の堀・掘立柱建物・堅穴住居・溝、中世の井戸・溝などが見つかりました。

なかでも最も注目されるのは、十三個の柱穴が見つかった堀（板堀）跡です。一辺が八十cm〜一m二十cmの四角い形で、深さ一mもある大きな柱穴が整然と並んでいました。柱そのものの痕跡は直径二十七cm前後、柱と柱の間（柱間）は約二・四m（八尺）で、ほぼ揃っています。堀の長さは、南北方向に二九・五m以上、東西方向に六・六m以上で、調査区から北と西に更に延びています。

この堀で囲まれた内側で、方位も柱間も堀と同じ柱穴列が見つかりました。大半が調査区外にあるので、全体像は

つかめませんが、区画を構成している建物の一つと考えられます。

他にも堀の可能性のある柱穴列が数箇所を確認されるなど、複数の区画施設が見つかりました。

また、古代の遺構の中には、堀よりも古い時期の倉庫と思われる堀立柱建物や柱穴が一辺一m二〇cm〜一m五〇cm、柱間約三・〇mと非常に大きな堀立柱建物や、竈をもつ堅穴住居もあります。

今回は、これまであまり調査が行われていなかった場所で初めて計画調査を行うことができました。その結果、複数の堀や柵が見つかったため、より複雑な様相を呈してきました。堀や柵の所属時期によっては、大きな区画の内部が細かく分かれていると考えられます。調査を重ねることができれば、いずれ解明されると思いますが、古代のある時期、この場所に堅固な堀で囲われた何らかの中心施設が存在したことは明らかになりました。

この堀に囲まれた中には、どのような空間が広がっていたのでしょうか。初期斎宮を含め、様々な可能性が想像されます。

斎宮歴史博物館
水橋 公恵

歴史の 声が聞こえる

―企画委員会編集部―

時を越え、いま旅立つ
このサブタイトルのもと、もう一度原点に帰り、まつりの主役である斎王を乗せる輿と都を離れるその時の気持ち、少しでも味わえるならと、奈良、飛鳥、藤原京、そして現在残っている古い型の輿がある手向山八幡宮、朱雀門のある平城宮跡と廻ってきた。

飛鳥浄御原宮では、六七四年天武天皇の時、大来により最初の群行が行われたと言われている。（大和の初瀬にて、一年間潔斎生活をしている）

藤原宮跡は、天武天皇が計画し、六九四年に持統天皇により飛鳥浄御原宮から遷都し、その後元明天皇が七一〇年に平城宮へ遷都するまでの十六年間続いた。（斎王としては当耆、泉、田形、久勢？の斎王がいたとされる）

ここは三方を西に畝傍山、北に耳成山、東に香久山、の大和三山に囲まれており、この三角形になる三山には、意味があるものと思われる。

藤原宮の大極殿跡に立ち、周りを見ると見事に大和三山、そして遠くには二上山までもが一望できる素晴らしい所で、しばし万葉の世界にひたつてしまった。（春過ぎて 夏来るらし 白たへの衣ほしたり 天の香久山）

《持統天皇》
手向山八幡宮は聖武天皇が、東大寺の守護神として宇佐八幡宮（大分県宇佐市）

を勧請（かんすう）（神仏がある場所に招いて分霊を祭る）したことにより創建された。
手向山八幡宮には、奈良平安時代、天皇、皇后、斎宮などに限られた古い型の輿が現在ここに残っている。

一基は天皇専用の主神の鳳輦型（屋形の上に金色の鳳凰を飾りつけたもの）で大切な儀式の時に用いられた。後一基は葱華輦型（屋形の上に金色のネギ花を飾ったもの。ネギ花は長く散らないので、めでたいと考えられていた。昭和天皇の大喪の礼にもちいられている）である。

国宝の輿が拝見できなかったのは、非常に残念であったが、斎王まつりが使っている輿も非常に優れているものだと言再確認出来た。

平城京跡には、朱雀門（平城京の正門）が復元されている。

ここから見ただけでも、平城京の広さにはびっくりである。藤原京の次の都として元明天皇により、造営七一〇年に遷都され、七八四年桓武天皇により長岡京に遷都される七十四年間に渡って続き、政治、文化の両面で繁栄した。

現在は、第一次大極殿の復元中であるが、完成が楽しみの一つである。（斎王としては、井上、県、小宅、山於、酒人、浄庭？の斎王がいたとされる）

（企画委員長 岩佐 康則）



いつきのみや 斎宮の いる風景

あすかきよみはらのみやあと
飛鳥浄御原宮跡



飛鳥浄御原宮は、六七二年の壬申の乱に勝利した大海人皇子（天武天皇）が、近江大津宮から飛鳥に都を戻すべく造営した宮。天武天皇とその妻、持統天皇の二代が二〇年以上に渡って律令国家の基礎を固めた宮である。

宮の構造は高床式で、『正殿』の東隣に渡り廊下を付けた『脇殿』、西隣に廊下状建物がある非対称の構造であった。（藤原京、平城京は中国様式を取り入れた対称型）正殿の建物を渡り廊下でつなぐ構造は、平安京の内裏等でみられ、平安中期、貴族の邸宅形式として定着していた。飛鳥浄御原宮は、これらの原点であったと考えられている。

天武天皇の皇女である大来は、壬申の乱の時、天武天皇が伊勢神宮に勝利を祈願し叶えられたため、この宮から天照大神の御杖代として遣わされた。この頃から斎王制度が整えられ、記録も残っていることから制度上最初の斎王とされている。まさしく、この宮が、斎王のルーツであり、斎王の原点である。

ただ、この地を訪れて、斎王から連想される優雅さ、煌びやかさが全く感じとれなかったように思う。皇位継承紛争、権力争いが絶え間なく起こったこの時代の斎王が、どのような衣装で、どのような生活をしていたのか想像してみた…。

斎王は、優雅で煌びやかな平安時代の衣装がよく似合うと感じるのは私だけでしょうか。（実施委員長 笛川 浩）

飛鳥宮跡から藤原京跡へ

真白な溶雪剤が敷き詰められた県境、高見峠のループ橋を過ぎると、山の景色は一変した。山麓に散在する民家も何となく古代の都を想わす様に白壁の家々が目立つ様になった。国道一六六号と三七〇号線の交差点に位置する道の駅にて休憩する。「大宇陀阿騎野宿」と名付けられた道の駅は昔の宿場町をイメージして建設されたらしく外観は大変印象的であった。宇陀川沿いに広がる小高い丘は古代の狩場であったらしい。万葉集「ひむがしの野にかぎろいの立つ見えて」と柿本人麻呂が歌ったこの地は現在「かぎろいの丘万葉公園」として万葉植物などが植栽されている。

大宇陀路から飛鳥浄御原宮跡へと向かう。整備された田園の中を徒歩で十分。飛鳥宮跡に到着する。ここは六世紀末から七世紀末まで約百年に亘って国政の中心であった。建物は無く美しく整備された敷石に佇みながら、天皇の名代として初代斎王、大来皇女はこの地から伊勢に向かれた。蘇我親子の邸宅があったと言われる甘檜丘を眺め「斎宮はここから始まった」事を実感する。「蘇我入鹿首塚」より飛鳥寺境内へ入る。飛鳥寺は蘇我馬子が建立した日本初の本格的寺院で飛鳥大仏の名で知られている。玉砂利を踏みながら本堂前に進むと寺院を囲むかの様に紅梅・白梅・

高円椿が春遠からじと書を堅くしていた。再びバスに揺れながら藤原京跡へと向かう。現在広大な草原として保存されている藤原京跡は、当時本格的な都として中国唐の都を真似て造成されたらしい。研修で訪れたその日は盛大に親子たこ上げ大会が開催されていて古代の都跡は現在市民の憩いの場として機能していた。雲一つ無い青空の下、美しく映える畝傍・耳成。香具山の大和三山や前方に葛城山、多武峰を背にして奈良市内へと向かった。

（事務局 野畑 久子）



藤原京跡

六九四年飛鳥浄御原宮から遷り、七一〇年平城宮に遷るまでわずか十六年間の宮都。天武天皇即位後、強力な官僚機構をもつ宮都の造営が企画された。しかし、天武天皇の死によって、宮都の建設は中断し、本格的に造営が開始されたのは妻の持統天皇の即位後であった。

藤原京は、中国の都城制にならって造られた初めての本格的な宮都で、その京城は大和の古道として古くから通じていた奈良盆地を東西に走る横大路、南北に走る中ッ道、下ッ道に囲まれた地域である。

藤原宮の位置は東に天香具山、西に畝傍山、北に耳成山の大和三山に囲まれ南方はるかに吉野連山を望む地域にある。

現在の藤原宮の跡は広い野原になっていて、大極殿の跡はレンガのようなもので囲んであり、その真ん中にこんもりとした森があって、そこに「大極殿跡」の碑が立っている。周りには道筋が東西南北に伸びており、かつての大路の跡を偲ばせる。宮の廻りは畑や集落が広がり、典型的な田園風景である。

（企画班 小林 順一）

大伯（大来）恋情

伊勢齋宮の歴史が、この一人の皇女によって始まったということは、きつと偶然ではない。

大伯（大来）は船上で生を受けた。齊明天皇七年（六六一年）正月。父天武天皇（当時大海人皇子）、母大田皇女（天智天皇女、持統天皇の同腹姉）。百済を救済するため、唐と新羅の連合軍と戦うべく、朝廷軍は軍勢を集めながら瀬戸内海小豆島沖を西行していた。船が大伯（岡山県邑久郡）の海を通った時生まれたので、大伯と名付けられたという。

熱田津に 船乗りせむと 月待てば

潮も叶ひぬ 今は漕ぎ出でな

その時はもう天智（中大兄皇子）とのつきあいは始まっていたのだろうか。大海人皇子との間に生まれた十市皇女はいくつになつていたのだろうか。あの額田王が四国伊予の津で「さあ、戦に行こう」詠んだのは、この出生からわずか（一ヶ月ほどか？）経ってからのことだ。

筑紫で母齊明天皇を喪い、大陸での戦（韓国白村江）でも大敗した事をきいた中大兄皇子は、西日本、日本海への守りを固め、六六七年近江大津に遷都した。そして滅亡した百済の高官達を驚くほど数多く中枢の官僚に取り立てている。大伯六歳（満年齢）の時だ。その前年に母大田皇女が亡くなっている。

大津京時代はそれからわずか五年間で終わる。有名な額田王と父大海人皇子との恋歌は蒲生野（この地も鬼室集斯ら七〇〇名もの百済官人たちの移り住んだ所だ。また鬼室集斯の墓は現存する）での宴のときのものだ。

茜さす 紫野行き 標野行き

野守は見ずや 君が袖振る（額田王）

紫草の にはへる妹を 憎くあらば

人妻ゆゑに われ恋ひめやも（大海人皇子）

さて六七二年、大伯皇女十一歳、弟大津皇子

九歳の時、壬申の乱がおこった。父大海人皇子は吉野から伊勢、伊賀から美濃へ兵をふやしながら進んでいった。大伯や大津は二日後に鈴鹿で合流してから、挙兵の報を事前に密かに知り、大津京をぬけだせたのだろう。この日、大海人皇子は、朝明の迹太川のほとりで遙か東、天照大神を遥拝して戦勝を祈願した。のちの日、大伯皇女が齋王となつて伊勢齋宮に赴くことになるのは、この運命的なさだめであつたのだろうか。

この戦いに勝利した大海人皇子は翌六七三年二月、飛鳥浄御原に即位して、天武天皇となつた。そして四月、そのさだめに従つてか、愛娘大伯を泊瀬で潔斎させたのち伊勢齋宮として天照大神のもとに仕えさせることにした。一二歳（伊勢下向は二三歳）にして齋王の初めとなつたのだ。

それから朱鳥元年（六八六）まで一二年間、おそらく祓川段丘上の居館を中心に若き日々を神に仕えることで送られたのだろう。大伯二五歳になつてた。

九月九日、天武天皇崩御。その前後、弟大津皇子が「竊かに伊勢神宮へ下りて上り来」て、齋宮大伯のもとに赴いたのだ。父天武が、朝明の迹太川で天照大神を遥拝したように、大津もどこかの河原で遙かに伊勢を拝するべきだった。そうであれば……

わが背子を 大和へやると さ夜ふけて

曉露に わが立ち濡れし

二人行けど 行き過ぎがたき 秋山を

いかにか君が 独り越ゆらむ

独り秋山を超えて飛鳥浄御原の都に帰った大津は、謀反の疑いを受け、叔母である鸕野皇后（のちの持統天皇）の命により死を賜る。「器宇逡巡。幼年にして学を好み、博覧にして能く文を属る」「武を愛み、多力にして能く剣を撃つ」大津皇子。姉大伯の絶唱は飛鳥の都に届くことはなかったが、千三百有余年を経ても、私たちの心には確実にしみ通つて

くる。

うつそみの 人にある吾や 明日よりは

二上山を 弟背と 吾が見む

齋王の任を解かれ、帰京したのち、葛城の二上山に改葬された弟大津皇子を偲んでこの歌を詠んだのは、「夏来にけらし」とのんびりと持続がうたった天香具山の麓、藤原京でのことだったのだろうか。

戦船で生まれ、万葉の歌々をゆりかごにして育った大伯は、落魄の日々を歌に託して生きたのだろうか。いや、名張夏見に私寺をたてた彼女は、国、朝廷のために「神」に祈つた若い日の齋王ではなく、「私の心の祈り」を「御仏」にささげる安息の日々をおくつたと考えたい。

（前後祭班 東谷 泰明）

平城宮跡

平城宮跡は、我が齋宮跡とよく似た遺跡である。甲子園球場が三十個入り（齋宮跡は三十五個）、その広大なスペースを近鉄奈良線が横断する。復元された朱雀門前は幅七十四メートルもの朱雀大路となつており、宮の正門としての権威とその雄姿を国の内外に誇っていた。

門から奥をながめると、元明天皇が藤原宮より遷都した頃の、大極殿復元工事中（二〇一〇年完成予定）のテントが見える。恐らく聖武天皇の皇女井上内親王の齋王発遣の儀はここで行なわれたのだろう。彼女は五歳で卜定され、齋王として伊勢で二十数年過ごした後、弟安積親王の死亡により都に戻り、後の光仁天皇と結婚して、光仁期の齋王酒人内親王を生む。

その酒人が齋王として伊勢に赴く時、母井上と弟戸親王は、光仁帝を呪つたという鬼道の罪により皇后・皇太子の身分を剥奪され、又後に天皇の姉を呪つたと、これ又罪を着せ

齋王まつりから 歴史文化と見つめ直す

今日のグローバル社会では、異文化で育つた外国人と接する機会が多々ある。私は学生時代に語学研修で海外を訪れた経験がある。その時、知り合った外国人の方から日本の文化・歴史について聞かれた。日本固有の文化・歴史への強い好奇心ゆえに聞かれた質問であつたが、上手く返答ができずに困つてしまった。もちろん、語学力不足が原因のコミュニケーション難があることは否めないが、自身自身が郷土の文化・歴史にまったく興味を持っていないこと、それゆえに伝えることができないことを恥ずかしく感じた。

私が生まれ育ったこの故郷は、近くに日本人の心の故郷と呼ばれる伊勢があり、そして、「齋宮」の地である。この郷土が誇る文化行事である「齋王まつり」に協力することで、改めて郷土文化や歴史を見直し、学んでいきたいと考えている。

今回、齋王まつり実行委員会の研修旅行として、奈良（平城京、藤原京）方面を訪れたが、私の郷土である齋宮（齋王）とのつながりを意識してみると、かつて訪れた時とは異なる感情で名所旧跡を



あおによし 奈良の都は
咲く花の 薫りがごとく
今盛りなり

小野 老

られた後、宇智（奈良県五条市）に幽閉されていた。恐らく藤原百川の陰謀による。

その発遣の儀は、母井上の発遣の儀の行われた隣の区域、現在基壇のみが復元された第二次大極殿に於て、かつて無い程の荘厳さの中、行なわれたのだろう。ここで酒人は、老齢の父光仁帝をキッと睨み付けたかもしれない。

宇智で憤死した母と弟（不審な同日死）を弔うため、帰京後の酒人は異母兄の恒武天皇の妃を迎えられた後、のちの齋王朝原を生む。又、東大寺万燈会をしばしば催すなど、散財をくり返したり、「容ぼう殊に麗しく、しとやかなり」と記されているも、その生き方は全く自由奔放で、自分で自分を制することもままならない程であつたが、妃の心を知る恒武帝は彼女を深く愛して、心のままにまかせたと言う。天皇自ら井上母子謀殺に至る事件に加担したという心苦しさがあつたに違いない。

（企画班 藤田 ゆかり）



感じ取ることができた。各時代ごとにしか考えた事の無かつた歴史が、現在の私たちの生活にまで繋がっている事を再認識することができた。

今日の社会は、経済の目覚ましい発展とともに私たちの暮らしには便利なモノに溢れ生活スタイルも多種多様となった。その一方で、悲しい事件や犯罪が跡を絶たず、心の豊かさについては忘れ去られてしまっている。私たちが忘れかけている本当の心の豊かさとは何かを見つめ直したいと感じている。

齋王まつりとの関わりが、歴史について見つめ直すきっかけを私に与えてくれたような気がする。微力ながら、齋王まつりに協力していくことで、明和町を始めとした地域社会の発展の役に立つことができればと考えている。そして人々の心が豊かになり、世界平和につながることを祈りたい。

（群行班長 早川 潤一）



万葉人の声が聞、こえる

―齋王さまのいる風景―

二上山は古代から「ふたかみやま」と呼ばれ、聖なる山、西方浄土の入り口として崇められてきました。山は雄岳と雌岳の二峰からなり、大津皇子の墓があります。万葉集には姉である大伯（大来）皇女の、弟を悲しんだ歌が残されています。

うつそみの 人なる吾や 明日よりは

二上山を 兄弟と 我見む

二上山山頂の落陽は大津皇子の悲劇が重なり、夕刻には、もの哀しい雰囲気があります。昼間は、なだらかに連なる尾根を背景に、のどかな田園風景が広がる里です。

時が止まっているような静けさの漂う田舎風景の中で『万葉集』を口ずさむと、何気ない風景も美しく思え、万葉びとの心に触れるような気がして、どこか懐かしいような気持ちにさせてくれます。

二上山の麓には当麻寺があり二上山周辺は、私の好きな大和の里風景です。

齋王制度は、大来皇女が基礎を築き、井上皇女が齋宮寮や齋王制度を確立・発展させていったと思われまます。大来皇女は十三年間、井上皇女は二十年間余（正確な年月は不明）という長い期間、齋王としてすごされました。井上皇女は聖武天皇第一皇女であり母は、県大養宿禰唐の女。井上皇女は生涯を通じて藤原氏一族から、うとまれ利用され毒殺されました。井上皇女も故郷の風景が心の慰みになったことでしょう。皇位継承問題で、心をわずらわせていた大来皇女や井上皇女も万葉びとが愛した大和三山である耳成山・香具山・畝傍山や二上山等、ゆつたり流れる大和路の田園風景を眺めることが『心のよりどころ』だったのではないのでしょうか。やがて歌が生まれ、生きる証の声となりました。

齋王となつた日にも、齋王解任となり戻ら



いつきのみや梅まつり



知事表敬訪問



準備作業



準備作業



準備作業



実行委員集合

平成17年(第23回) 齋王まつり実行委員会の活動

1月	12日(水)	企画委員会(ポスター編集)	6月	4日(土)	第23回 齋王まつり 禊の儀 前夜祭
	19日(水)	パンフレット取材研修(奈良三輪方面)		5日(日)	齋王まつり 齋王群行
	24日(月)	第1回役員会		11日(土)	役員反省会
	28日(金)	ポスター納品		14日(火)	愛・地球博出演要請説明会(三重県担当課来社)
	30日(日)	第23回齋王まつり総会(研修室)		23日(木)	役員会
2月	9日(水)	役員会(梅まつり他 協賛金等打合せ)	7月	4日(月)	愛・地球博出演について(本部・県担当課と打合せ)
	14日(月)	ジャスコ明和店フォトコンテスト等展示(20日撤去)		7日(木)	本部・委員長会議
	18日(金)	総務委員会		13日(水)	役員会
	20日(日)	梅まつり(斎宮歴史博物館梅園)		20日(水)	本部・委員長会議
	21日(月)	出演者応募締め切り		23日(土)	齋王ふれあいまつり協力
	24日(木)	応募者書類選考会		26日(火)	本部・委員長会議
3月	2日(水)	群行委員会		27日(水)	役員会
	3日(木)	アトラク委員会		31日(日)	フォトコンテスト写真1次選考会(80名 209点)
	6日(日)	童・童女説明会(総合体育館)	8月	1日(月)	選考委員会(新組織役員体制について)
	9日(水)	特産品振興連絡協議会会議		18日(木)	役員会 フォトコンテスト入賞・入選写真選考
	11日(金)	企画委員会		29日(月)	愛・地球博「三重県の日」出演 齋王他明和町出演者12名
	13日(日)	配役選考会(いつきのみや歴史体験館)	9月	8日(木)	新役員挨拶(役場他)
	30日(水)	齋王市アトラク委員会		10日(木)	第24回齋王まつり第1回総合企画会議
4月	31日(木)	齋王市出展希望者締め切り パンフ編集完了		13日(火)	斎宮浪漫まつり会議
	9日(土)	群行・禊正副委員長会議		18日(日)	いつきのみや観月会協力
	13日(水)	齋王市出展者会議		22日(木)	第2回総合企画会議
	14日(木)	アトラク出演者締め切り ※町内自治会長へのお願い	10月	7日(金)	役員会議
	22日(金)	アトラク出演者会議 ※マスコミ資料配付		13日(木)	いつきのみや休憩所写真展示
	24日(日)	全体会議 ※警察、消防への申請			第3回総合企画会議
5月	28日(木)	リーフレット各自治会へ配布		20日(木)	印刷業者説明会・企画班会議
	3日(火)	アトラク・群行委員会		22日(土)	斎宮浪漫まつり協力
	8日(日)	出演者説明会 アトラク会議		27日(木)	第4回総合企画会議
	9日(月)	総務委員会	11月	7日(月)	印刷業者ポスター締め切り
	10日(火)	アトラク出演者会議		8日(火)	アトラク齋王市班・前夜祭班会議
	11日(水)	近隣町村廻り FM三重収録(齋王)		9日(水)	群行班・禊班会議
	14日(土)	竹きり(のぼり立て用) 皇學館訪問		10日(木)	第5回総合企画会議
	17日(火)	特産品振興連絡協議会会議		11日(金)	いつきのみや休憩所写真撤去
	18日(水)	知事訪問 アトラク・群行委員会			着付班会議
	20日(金)	明和交番所長とまつり会場現地廻り		15日(火)	総務班会議
	21日(土)	のぼりたて用意			企画班会議(千巻印刷と打合せ)
	22日(日)	のぼりたて・役員会・アトラク委員会		18日(金)	文化祭写真等飾り付け
	24日(火)	齋王市最終説明会		19日(土)	町文化祭
	25日(水)	アトラク出演者最終会議		20日(日)	古道まつり協力
	29日(日)	最終全体会議(依頼した群行参加者説明会)アトラク作業		22日(火)	ポチ博用意
6月	30日(月)	役場職員ボランティア打合せ・アトラク作業		23日(水)	ポチ博協力
	1日(火)	アトラク会議 アルファコーポレーション博物館ピン打ち	12月	8日(木)	第6回総合企画会議
	2日(木)	禊・群行委員会・準備作業		15日(木)	梅まつり会議
	3日(金)	準備作業			

図書館の紹介

私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の 入門書として	谷口布有緒文 里中満智子画『齋王ロマン 都わすれの詩』明和町◎☆ 中野イツ著『齋宮物語』明和町◎☆ 山川修司著『語り部の竹の齋王語り』近代文芸社◎☆◇ 櫻村寛之著『伊勢齋宮と齋王』塙書房☆
郷土の歴史として 「齋宮」を 知りたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る齋王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢齋王宮の歴史と保存』○◇ 『同Ⅱ』◇
齋王三行の旅した 「群行」の道を 歩いてみたい方に	田畑美穂著『齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―』中日新聞本社○◇ 村井康彦監修『齋王の道』向陽書房◎☆◇
「齋王」を小説で 読んでみたい方に	内田康夫著『齋王の葬列』角川書店○◇ 池田美由喜著『鷲草―大津皇子とその姉と―』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸◎◇ 々々『伊勢齋王の恋』近代文芸社◎◇ 々々『哀しみの伊勢大来齋王』近代文芸社◎◇
「齋宮」や 「齋王」について 考えてみたい方に	津田由伎子著『齋王』学生社○◇ 山中智恵子著『齋宮女御徽子女王―歌と生涯―』大和書房○◇ 々々『齋宮志』大和書房○◇ 々々『続齋宮志』砂子屋書房○◇ 々々『齋宮創記』砂子屋書房○◇ 所京子著『齋王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 々々『齋王の歴史と文学』国書刊行会◇ 櫻村寛之著『律令天皇制祭祀の研究』塙書房◇ 中川諄梵著『齋宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆

第24回 齋王まつり実行委員会組織体制

役 職 名								
本 部	代表 森下 清	実施委員長 笛川 浩	総務財務委員長 田中 貢	企画委員長 岩佐康則	事務局 野畑久子			
会 計 監 事	西口岩男	渡辺幸宏						
顧 問	名誉会長 木戸口眞澄							
	西場信行	大野秀郎	内田節夫	大和谷正	中山正美	松井彰二	山口一郎	
	中出和之	吉田いと	中野イツ	山川充造	新田一子	小林邦久		
相 談 役	辻 孝雄	森島啓之	松島 孜	橋本久雄	朝倉惟夫	東谷泰明	北村純一	
役場担当係	西村 健	家城和司						

小委員会名	任 務 分 担 の 内 容	構 成 す る 委 員 の 氏 名							
総務班	総務実施計画と実施	◎竹内克巳	○松島 孜 原野正之	○山路雅敏 山内聖人	菅野雅文 山口勝司	辻 孝雄 浅尾 健	橋本久雄 三谷 誠	11	
財務班	財務実施計画と実行	◎大西俊次郎 西村直克							2
禊 班	禊の儀の実施 (禊の儀での群行を含む)	◎森田 均	○森島啓之 中瀬正実	岸 幸平 中村利彦	北岡 優 藤松伸夫	北村純一	北山房夫	9	
前夜祭班	前夜祭の実施 ステージの企画	◎関岡武夫	○東谷泰明 田端利也	石田豊喜 長谷川新	小林邦久 光田祐次	佐々木久夫	三田鉄郎	9	
群行班	出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施	◎早川潤一	○中川裕正 中村好富 田中真司	○朝倉惟夫 西村 帝	石田藤生 八田秀穂	亀村定雄 森島朝美	中村 修 山本佐七	12	
着付班	着付け 主演者の移動	◎土井祐治	○北川和樹 澤 恒一 清水清子 安井澄代	○西川道子 田端幸男 夏井ちはる 奥野英子	○澄野たい子 西岡吉一 西川美代子 新谷千恵子	○田中政子 大山静子 西宮幸代 竹内奈弓	澤 和弘 服部益子 東川依子 廣 佳重	21	
アト・斎王市班	アトラクションの実施 斎王市の実施	◎伊串金市	○中西修一 永島せい子	○北岡 泰 西野政雄	乾とき子 森西捨巳	小倉斎信	北村哲也	9	
企画班	まつりの全体企画 ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎八田明美	○中西与志嗣	○西山清美	○藤田ゆかり	○小林順一	5		

敬称略・順不同(◎は班長 ○は副班長) 平成18年4月1日現在



斎王群行絵巻 河村長観画(斎宮歴史博物館蔵)

斎王群行

◆平安時代の「群行」と斎王まつりの「群行」

現在、斎王まつり実行委員会が毎年実施している「斎王群行」は、まつりを見に来てくださる皆様にできるだけ楽しんでいただけるように、斎王をはじめ斎宮寮の官人や官女といった人々以外にも、実際には群行に加わっていなかった様々な都人達も登場して、華やかなまつりに一段と彩りを添えてくれています。

それでは、斎宮の最盛期であった平安時代に行われていた斎王の群行とはどのようなものだったのかご紹介したいと思います。

◆天皇との別れ

新しい天皇の即位にもなつて、未婚の皇女の中から選ばれた斎王は、まず宮中に準備された初斎院で半年～一年、次いで都の郊外に設けられた野宮（現在の京都嵯峨野あたり）で一年にわたり身を清め、伊勢神宮で九月におこなわれる神嘗祭の時期に合わせて斎宮に赴きました。

群行当日、野宮を出た斎王は、桂川で禊をおこない、平安宮の大極殿に入り、天皇との別れの儀式に臨みます。天皇は、自らの手で斎王の額に櫛を挿して「都の方におもむき給うな」と別れの言葉を告げます。この櫛は「別れの御櫛」と呼ばれました。

◆斎王に付き従った人々

大極殿を退出した斎王は、葱華輦に乗って斎宮へと旅立ちました。出発する頃には深夜になってしまふことが多かったようです。群行の行列には、斎王を斎宮まで送り届ける役の長奉送使（監送使とも）をはじめ、斎王とともに斎宮に着任する斎宮寮の官人や女官たちが、馬や牛車に乗るなどして従いました。

この他にも、都のはずれまで一行を見送る勅使（送斎内親王使とも）、群行路にあたる近江や伊勢の国では、国司・郡司などの官人の出迎えや随行が行われるなど、群行の総勢は五百人を超える大規模なものだったのです。

◆斎王の乗った葱華輦（そうかれん）

斎王が乗った乗り物のことを「葱華輦」といいます。葱華輦とは、天皇が神事や臨時の行幸に乘用した輦輿（肩で担ぐ輿）のことで、天皇以外では皇后と斎王のみが乗ることを許されている特別な乗り物でした。屋根の上に葱坊主形の飾りがつくことから、このように呼ばれました。前後六名ずつの十二名の担ぎ手（駕輿丁）によつて担がれました。葱華輦は、単なる乗り物ではなく、天皇の名代（御杖代）として伊勢神宮に仕えた斎王の立場や身分を象徴するとても重要なものでした。

なおこの葱華輦とともに、腰のあたりで持ち上げる軽量タイプの輿である腰輿（手輿とも）も用意されていたようなので、山道などではむしろこちらを使用したものと思われます。

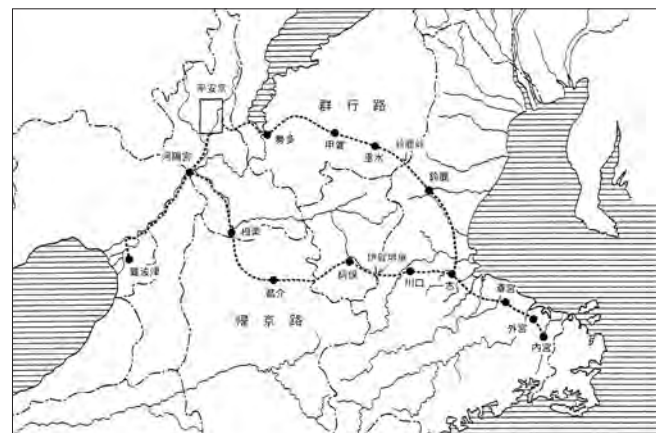
◆斎王の群行路

都の遷都にもなつて、群行路も変化しました。飛鳥・藤原京からであれば、初瀬から伊賀の名張、阿保を経て伊勢の川口、一志、斎宮へと到るルート、平城京からなら、大和高原を越えて名張に到る「都祁山の道」が使用されたものと考えられています。

そして平安時代になると、現在の国道一号に沿って東に進み、鈴鹿峠を越えて、安濃川沿いに伊勢平野を南下し一志、そして斎宮に到るルートが定着していきました。

群行は、国境や河川を越えるたびに禊を行ないながら、5泊6日の行程で行われました。仮設の宿泊施設として、近江の国府（勢多）・甲賀・垂水、伊勢の鈴鹿・一志の5ヶ所に頓宮が設けられました。

群行道中最大の難関は鈴鹿峠越えでした。群行の責任者として随行した貴族の残した日記などから、そうした苦労の様子を偲ぶことができます。



斎王群行路地図



垂水頓宮跡



葱華輦復元模型(斎宮歴史博物館蔵)



野宮図(斎宮歴史博物館蔵)

齋王さまは匙さじ(スプーン) を使っていた



齋王の食事復元模型
(齋宮歴史博物館蔵)

●天皇の食器

平安時代の食事は、今の料理とは違って、あまり煮たり、焼いたりといった調理を加えたり味付けをせず、刺身のように塩や酢・醬ひしおなどの調味料につけて食べるのが中心でした。齋王の食事も同様と思われますが、その食器は銀製の特別なものだったようです。このような平安の食事と食器の中でもちょっと面白い存在は匙さじ(スプーン)です。匙さじはもともと中国から入ってきたもので、ご飯をすくって食べるために使われましたが、平安時代以降は使われなくなります。現代に私たちにも馴染みの食器であるスプーンが再び使われるようになるのは、明治時代になって洋食が普及するようになってからなのです。



つのだらい
角盥 (齋宮歴史博物館蔵)

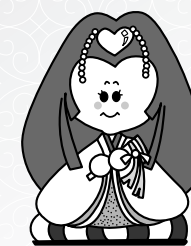
●天皇の身だしなみ

齋王をはじめ平安時代の貴族にとっても、みだしなみはとても大切でした。角盥(つのだらい)やゆする杯(つき)はそのための大切な道具で、貴族女性の部屋の必需品でした。角盥は顔や手を洗ったり、楊枝(ようじ)で歯をみがいた後に口をすすぐために使われ、またゆする杯には、米のとぎ汁が入れられており、洗髪や整髪に使用されました。平安時代の女性にとって、豊かで長い髪の毛は、美しさの条件として重んじられていましたので、髪の手入れには特に気がつかわれたのです。

ふだん着は小袷こうちき 公務は十二単



小袷 (齋宮歴史博物館蔵)



齋王 アラカルト

●齋王の衣裳

齋王の衣裳について詳しいことはわかりませんが、基本的には都の姫君たちと同様だったと思われます。儀式などの時は、貴族女性の晴れ着である十二単を着用し、ふだんは、十二単で一番上にはおる唐衣(からぎぬ)や裳(も)を省略して、その代わりにやや小ぶりにつくった小袷(こうちき)という種類の衣を上にもとう小袷姿で過ごしていたと思われます。なお、天皇から成人式用の衣裳として白色の唐衣と裳、緋色の袴が齋王に贈られたという記録がありますので、神事など齋王としての重要な行事の時は、このような特別な白色の十二単を着たのでしょう。

別れの御櫛おぐしは 6 cm



別れの御櫛と櫛箱模造品 (齋宮歴史博物館蔵)

●天皇から齋王に贈られた櫛

齋王は、齋宮への群行に際して、宮中の大極殿(だいごくでん)で天皇との別れの儀式をします。この儀式のクライマックスが櫛の儀式でした。天皇は、齋王に「都の方かたに赴き給うな」という言葉をかけて、齋王の額髪に「別れの御櫛おぐし」を挿しました。その後、齋王は齋宮へ向けて出発するのです。記録によると、天皇から齋王に贈られた櫛は、黄楊でできた小さくてシンプルなもので、長さは6センチくらいだったといいます。そして、群行初日の宿泊地勢多(せた)の頓宮(とんぐう)に到着すると、頭からはずして大切に櫛箱の中にしまうのがしきたりでした。

斎王なんでもナンバーワン



◆最も若い年齢で選ばれた斎王は誰？

高倉朝の功子（いさこ）斎王です。安元2年（1176）3月頃に高倉天皇の皇女として生まれ、翌治承元年（1177）10月、わずか生後1歳半にして父高倉の斎王に選ばれました。母の喪により野宮から退任したので斎宮には群行しませんでした。

◆最も高齢で選ばれた斎王は誰？

後堀河朝の利子（としこ）斎王です。斎王に選ばれた皇女の年齢は、5～15歳にかけてが多いのですが、利子斎王は、嘉禄2年（1226）に29歳で斎王に選ばれ、安貞2年（1228）に31歳で斎宮に群行、貞永元年（1232）に35歳で退任するまでの6年間務めました。

◆最も長く斎王の役を務めた斎王は誰？

醍醐朝の柔子（やすこ）斎王で、33年間努めました。寛平9年（897）8月に斎王に選ばれて、昌泰2年（899）9月に斎宮に群行し、延長8年（930）9月に醍醐天皇の譲位によって退任しました。ちなみに、斎王在任期間の平均は8年ほどで、柔子斎王の次に長いのが一条朝の恭子（たかこ）斎王の24年間で、ダントツのトップです。

◆斎王時代の自作和歌を最も多く残す斎王は誰？

朱雀朝の雅子（まさこ）斎王で、25首ほどが知られます。雅子斎王は、藤原敦忠と恋愛関係にありましたが、斎王への就任によって二人の仲は裂かれてしまいます。『後撰和歌集』に二人が詠み交わした和歌が残されています。

◆一番最初に伊勢斎宮に群行して来た斎王は誰？

天武朝の斎王大来皇女でしょう。斎宮は、古代最大の内乱である壬申の乱に勝利した天武天皇によってこの地に本格的に整備されたと考えられています。発掘調査でも天武天皇の時代の斎宮に関わると考えられる建物の跡や土器が見つかっています。

◆一番最後に斎宮に来た斎王は誰？

亀山朝の愷子（やすこ）斎王です。愷子斎王は、文永元年（1264）に斎宮に群行し、文永9年（1272）に退任するまで努めました。その後、1330年代に斎王制度がなくなるまでに3人の斎王が選ばれましたが、いずれも野宮で退下したため、愷子斎王が最後となったのです。

◆最も悲劇的な斎王は誰？

たぶん聖武朝の井上（いのうえ）斎王でしょう。聖武天皇の皇女だった井上斎王は、斎王退任後、光仁天皇の皇后となり、皇太子他戸親王を生みましたが、権力争いに巻きこまれて謀叛の疑いを受けて、親王とともに幽閉され、その2年後に亡くなりました。

◆最もセンセーショナルな斎王は誰？

やはり『伊勢物語』に登場する恬子（やすこ）斎王でしょう。恬子斎王は、狩りの使いとして都からやってきた「ある男（在原業平）」と幻想的な一夜をともに過ごします。神に仕える斎王に恋は禁物。このはかない恋の物語の真偽は今も定かではありません。



※歴代の斎王の中には、文献史料があまり残っておらず、あまり詳しいことがわからない人も少なくありません。この記事も現在残っている史料をもとにまとめたものなので、もしかするともっとすごい人がいたかもしれません。
※ここでは、斎王制度が確立した飛鳥時代の斎王大来皇女以降の斎王を記述の対象としました。また年齢は満年齢で表記しました。

三重県学芸員 天野 秀昭

斎王

天皇の即位のごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十二単

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣（もろからぎ）といいます。単衣の上に袿（き）を重ね、打衣（うちぎ）、表着（ひょうぎ）の上にベストのような唐衣（もろからぎ）をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳（も）をつけます。貴族の女性の晴れの衣裳（正装）です。



内侍または命婦



斎宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺（にようじゆ）の上にいる立場にありました。

宣旨

斎宮で働く女官の中で、主に公文書を作成した担当者ではないかと考えられます。詳しいことは、わかっていません。

女別当



内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的資格をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺



「めのわらわ」ともいう女官で、一等人三等に分類されており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御膳などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女

都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられます。それから、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたという事実はなかったようです。



長奉送使



斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権を与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

隨身

高官の外出時に付き従った私的な従者です。

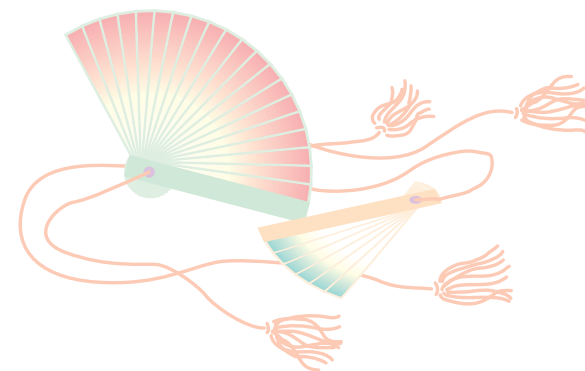
駕輿丁



斎王の乗る輿（こし）を担ぐ官人です。

フォトコレテスト 斎宮うたあわせ

第23回 斎王まつり



明和町教育長賞



「旅立ち」 津市 中井 元

斎王賞

「憧憬」

小俣町 安田佳弘



斎宮歴史博物館長賞

「勢揃い」

伊勢市 中北幸宏



明和町議会議長賞

「想いは斎宮へ」

久居市 高垣雅夫



明和町長賞

「静寂」

松阪市 坂口敏弘



特別賞

「斎王の微笑み」

明和町 里見治徳



特別賞

「斎王と子供斎王」

松阪市 中村一雄



特別賞



「斎王登場」 久居市 澤田傲自

特別賞



「群行出発式」 明和町 西岡育生

特別賞



「葱華輦」 明和町 太田 昇

第六回現代版斎宮うたあわせ

斎王賞

群行の 斎王の面の 清しさに
心いつしか 優しくなりぬ
度会町 浦田 フユ

業平賞

業平の 松の下にて 君我に
囁きおりぬ 嫁に來ぬかと
明和町 橋本 照美

明和町長賞

幼きに 薨ぜし斎王の 陵に
白へ花菖蒲 紫陽花の風
明和町 田端 繁雄

博物館長賞

身と焦がす 想いのすべて 夏花火
大淀湊で 業平のまつ
松阪市 山際キクエ

斎王まつり会長賞

古代米 戴く膳の 窓ごしに
討の揚羽は 斎野の堂へ
多気町 達 明美

《募集要項》

形式 短歌（五・七・五・七・七）

応募方法 応募用紙もしくは葉書一枚につき
一首インターネットでも可（二人
で何通でも応募は可能ですが、自
作で未発表のものに限ります）

内容 自由

締切 平成18年7月20日（木）消印有効

応募先 斎王まつり実行委員会

「斎宮うたあわせ」係

〔選考方法・賞〕

斎王まつり実行委員会にて選考委員を選出し、
各賞を決定します。

特別賞・五首 入選歌・五十首ほど

フォトコンテスト

●応募方法

・応募には郵送と斎王まつり事務所受付の2通りがあります。

・応募作品は応募者本人が撮影したもので1人3点以内、未発表の作品に限ります。

・カラー、白黒作品でサイズは四ツ切のみ

・応募票の各項目に楷書で記入し、題名、お名前には必ずふりがなをつけてください。

・応募作品の裏面に応募票を貼付してください。（コピーも可）

●締切

・平成18年7月20日（木）消印有効

●郵送方法について

・郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。

●選考方法・入賞・入選

・作品は斎王まつり実行委員会にて選考いたします。

・入賞は、5賞（斎王賞他）、入選20点程度とします。

・発表は、8月5日前後、新聞紙上にて発表します。

・入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることがあります。

・パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

●作品の返却

・応募作品はご返却いたしません。

●応募先
斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆応募・問い合わせ先

〒515-0321

三重県多気郡明和町斎宮2811番地

斎王まつり実行委員会事務局

電話 05961521054

FAX 059615217274



第21代齋王
田端 乃里子

齋王まつりの思い出

幼い頃から親しんできた齋王まつりに、二十一代齋王役として選ばれた時のあまりの驚きと、初めて十二単を身にまとった喜びとともに、不安と期待で一杯だったあの瞬間から早くも一年が過ぎようとしています。

突然の雷雨に遭いながら、地元大淀の地での禊の儀、豪華な竹の舞台で幻想的な雰囲気包まれた前夜祭、そして澄みきった青空の下、一面に広がる緑の芝生に初夏の風が吹きわたる「いつきのみや」齋宮での齋王群行。思い返せば王朝絵巻に飛び込んだようで、懐かしくも新鮮に蘇ります。葱華輦に揺られて、都との別れの悲しみや、新たな地への期待、神に仕える責任を心に秘めた歴代齋王たちと重なる想いを感じつつ、私なりの笑顔あふれる「齋王」を演じることが出来たと思います。これも生涯における貴重な体験の一つとなりました。

齋王まつり実行委員会の皆様を始め、地域の皆様、たくさんの方々のご支援、ご声援を心より御礼申し上げます。そして、齋王まつりのよき伝統を引き継いでいただき、今後のご発展をご期待申し上げます。



子供齋王
尾上 詩織

「子供齋王」としての齋王まつり

初めての齋王まつりに、初めての子供齋王。選ばれたしゅん間はほとんど実感がありませんでした。

思ったよりも衣装は重くて、顔に化しようをしてもらった時は、なんともいえない気持ちでした。

みそぎの儀の途中、いきなり雨になり、どうなるかと思ったけれど、少し後に、ちゃんと雨もやんでみそぎの儀をすることができてよかったです。

次の日、ついにそうかれんに乗ることができました。あこがれていたそうかれんに乗った時は、すごくうれしかったです。

多分、今回の齋王まつりでの多くの出来事は、私の思い出に大きく残ると思います。

齋王の気分をあげてくれたことをとてもうれしく感じています。

どうもありがとうございました。



時を越えいま旅立つ

齋王まつり実行委員会代表 森下 清

初夏のすがすがしい風が吹き、野花草薢のあざやかな紫が「いつきのみや」を染める時、時を越えた新たな齋王物語が始まります。

飛鳥時代の^{おおく}大来から南北朝時代の^{さちこ}祥子まで約六六〇年間、都からここ「いつきのみや」へ遣わされた五十四代の齋王やこの地に関わった人々を偲び、齋王まつりは始まりました。

まつりは、厳かな雰囲気の中で行われる「禊の儀」で始まり、特別ゲストにINFIX（ミュージシャン）を迎える華やかな「前夜祭」、にぎやかな齋王市、アトラクション、そして雅やかな「齋王群行」でクライマックスを迎えます。

今年で二十四回を迎える齋王まつりを、いままでも以上にみんなが楽しめるようにしよう。と齋王まつり実行委員会はみなさんのご協力、ご支援をいただきながらがんばっています。

ぜひ、幻の宮「いつきのみや」へ、心ふれあう「齋王まつり」にお越しください。



主催 ■ 齋王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、齋宮歴史博物館、(財)国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、国土交通省三重運輸支局
NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、FM三重、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、近畿日本鉄道株式会社

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL 0596-52-0054 FAX 0596-52-7274

<http://saioh.sub.jp>

定価100円

再生紙(古紙100%)を使用しています。